

# インドネシア語入門

## 論理的なアプローチ

Agro Rachmatullah

## 目次

1	はじめに	1
2	なぜインドネシア語を勉強するか	3
3	言語を勉強するためのアドバイス	3
4	発音編	3
4.1	文字、音節、発音記号 . . . . .	3
4.2	aiueo . . . . .	3
4.3	他の音 . . . . .	4
5	等しさ	4
6	性質	5
7	形容詞で修飾する	6
8	dan	8
9	ini と itu	8
10	所有	9
11	misc	10

## 1 はじめに

インドネシア語の教科書はたくさんありますが、ほとんどが以下の問題を持っています。

1. できるだけ早く学習者に簡単な会話をしてもらうように、フレーズ本のようなものになっていること
2. 最初から読者を驚かさないように、正確な発音の説明を省いてカナ発音でごまかすこと
3. 会話で実際に使われているインドネシア語、いわゆるくだけたインドネシア語を教えないこと

インドネシア語と日本語の文法はだいぶ違うので、文章を作るとき文の組み立て方ももちろん違います。例えば、友達の近況を聞く時に、日本語では「元気？」というひと言で済みますが、インドネシア語では「Sehat-sehat aja?」という言い方があって、直訳すると「元気元気だけ？」となって面白おかしく感じられますが、インドネシア語の文法によってこのフレーズの構造を説明することができます。フレーズ本のような教科書で勉強すると早く簡単な会話ができるかもしれませんが、場面ごとの複雑なパターンをたくさん丸暗記しないとイケなくなります。学習者は結局合理的な文法の理解が把握できないまま、複雑な考えを正確に正しくインドネシア語で伝えるのは困難です。

その問題の解決法は文法を簡単なものからだんだん複雑なものへと順序良く教えることです。文法を1つずつゆっくり取り込むことで、その背景にあるインドネシア人の考えも十分説明でき、習得した知識が次の文法の学習や複雑な文章の作成の基礎となります。

この教科書はインドネシア語の文法を深く理解できるように文法の知識を積み上げ式で築いていくというアプローチを採用しています。つまり [B] という文法を理解するには [A] という文法が必要なら、ある便利なフレーズを早く教えたいからといって先に [B] を教えるようなことは避けています。そのため、順番や説明は他の教科書とだいぶ違うかも知れませんが、会話ができるまで時間もかかるかも知れませんが、順調にレッスンを進むことができると確信しています。

インドネシア語は日本語と同じように1つの単語が変わるだけで異なるニュアンスを持つ文章になります。著者はインドネシア語を母語として日本語を勉強しているインドネシア人ですが、新しい文法を紹介する際にインドネシア人がその文法を用いた文章を使う時にどう考えたり感じたりするかをできるだけ詳しく説明して、同じような意味の日本語と比べてみます。

外国語で会話をするときに、伝えたいことを相手に理解してもらうことが一番大事です。もちろん正しいインドネシア語の文章を作るのは言うまでもなく必要ですが、文章に問題がなくても発音が綺麗ではないと聞き取りにくい。インドネシア語はローマ字で書かれているのでそのままカタカナみたいに読みがちですが、間違った発音になる場合が多いです。そのためこの教科書はしっかり発音できるようにそれぞれの音をきちんと習ってもらいます。

最後に、従来の教科書で習うインドネシア語はどちらかというとフォーマルなインドネシア語です。ニュース、新聞、スピーチ、講義、論文などは教科書のインドネシア語を使いますが、実際の会話で使われているインドネシア語は単語も動詞の変化などの文法も違います。ここでそのインドネシア語の一種を会話インドネシア語と言って、従来の教科書で教えてきたインドネシア語を教科書インドネシア語と言います。元々インドネシア語はそれぞれの地域言語を語る種族を結合させるために作られたので、公式な文法から外れる会話インドネシア語はみんなに理解してもらえないからといって、間違っているインドネシア語を使うべきではないと先生や教科書がその存在自体を否定してきましたが、言語というのは進化するもので今はそのくだけたインドネシア語がすでに広く普及されていて実際の会話で使われているので、会話のときに教科書インドネシア語を使うと逆に不自然です。

インドネシア人の子供は親、友達、テレビから言語を習って自然に会話インドネシア語を身につけたけど、現在のインドネシア人向けの国語の教科書の目的はそのくだけたインドネシア語を直すためだからもちろん会話インドネシア語は国語の教科書に載っていません。しかし、その場にふさわしい言葉と言えるのは言語学習の目的だから、その観点から見れば会話の時は教科書インドネシア語の方が実は間違っていて、正しいのは会話インドネシア語です。従って、インドネシア語を第二言語とした学習者には会話インドネシア語を教えるのは必要不可欠です。

教科書インドネシア語は使われていないわけではないし、会話インドネシア語の文法の基礎となるので、会

話インドネシア語の説明は教科書インドネシア語の後にきます。

## 2 なぜインドネシア語を勉強するか

## 3 言語を勉強するためのアドバイス

## 4 発音編

### 4.1 文字、音節、発音記号

インドネシア語はラテン文字（ローマ字）で書かれています。英語みたいにそれは 26 字の大文字と小文字からなっています：

大文字: A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

小文字: a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z

使い分けも英語と同じで、文章の始めや人の名前の頭文字を大文字で書きます。

日本語のかなは音節を表現します。例えば「あ」でも「ば」でもそのまま発音できます。一方、インドネシア語の音節は子音と母音の組合せからなっています。

インドネシア語の母音文字は 5 個 (aiueo) あって、単独でも音節になっていますので発音できます。例えば、「a」自体は日本語の「あ」と同じく発音します。

「b」など残りの文字は子音で、母音と合わせて初めて音節として発音できます。一番簡単な構造は「子音 + 母音」です。例えば「b」という子音と「u」という母音を合わせたら「bu」という音節になって日本語の「ぶ」と発音します。

カタカナで表現できるインドネシア語の音は限られているので、ここで大括弧の中のローマ字で発音を示します。「・」で音節を区切って、例えば「abu」（灰）の発音は [a·bu] と書きます。

「母音 + 子音」の音節もあって、例としては「an」です。「anda」（あなた）の発音は「あんだ」みたいで、発音記号で [an·da] と表します。

「子音 + 母音 + 子音」や「子音 + 子音 + 母音 + 子音」などもっと複雑な音節などもありますが、後で少しずつ紹介していきます。

韓国語などを勉強する場合、その言語の文字をまず勉強しないと全然読めません。しかしインドネシア語は見慣れたラテン文字で書かれているので一応日本語のローマ字表記のように読めます。説明したように、正しい発音と違うケースが多いですが、発音の勉強は結構時間がかかって大変なことなので、発音編を終えてから文法編に入るより、ローマ字発音で文法の勉強を始めて、同時に少しずつ発音編を読みながら自分の発音を直していくのが一番ラクかもしれません。

### 4.2 aiueo

母音は音節の基礎になるので、まず全部しっかりと習います。インドネシア語の母音文字は「aiueo」と 5 個ありますが、実は「e」という文字には二通り発音があるので、6 個の母音があります。

「a」、「i」、と「o」の発音は日本語の「あ」、「い」、と「お」と同じなので、問題ないです。

この 3 つの母音からでもすでに単語が作れます。しかし、母音が連続で出てくると、単語によって発音も色々です。それは単語ごとに憶えるしかないが、ここでその違いは発音の表記で表します。

「oi」という単語は発音的にも意味的にも日本語の「おい！」と相当します。この場合は一つの音節として o と i の音を合わせて速く発音します。発音記号で [oi] と書きます。

「多い」みたいな 2 音節の発音は [o·i] と書きますが、「·」は音節の区切りを表します。

「ia」(彼、彼女) はちゃんと二つの音節として発音するので、発音表記は [i·a] となります。「威圧」を、最後の「つ」を除いて発音するのと同じです。

「ia」の例では、実は i と a の音をスムーズにつないで「いや」と発音します。最後のパターンは切り離して発音するパターンです、例として「AI」という単語を使います。

「AI」は英語の「Artificial Intelligence(人工知能)」の略なので大文字で書きます。発音は「愛」みたいではなく「あ・い・う・え・お」の「あ・い」の部分みたいです。これは発音記号で [a·'i] と書きます。「i」の前の「'」はつなげないでという意味です。

その 3 種類をまとめて下の表を書きますが、それぞれの発音の違いはオーディオファイルを聞いてください。

[ai] 一音節として発音する（英語の「eye」みたい）

[a·i] 二音節、スムーズに発音する（「愛」みたい）

[a·'i] 二音節、切り離して発音する（「あ・い・う・え・お」の「あ・い」みたい）

#### 4.3 他の音

### 5 等しさ

あるものが何かであることを伝えるのはどの言語でも一番基本的なことです。例えば、日本語では指で指すものがペンであることを伝えたいときに「これはペンだ」と言います。インドネシア語は「adalah」を使います。

「adalah」を使ってあるものが何だかを断言する

名詞の間に「adalah」を入れる

例：Ini adalah pulpen. — これはペンだ。

ここで「adalah」は日本語の「だ」の役割を果たしますが、使い方は数学の「=」みたいで真ん中に入れます。「adalah」の左側と右側は同じものなので等しさの表現と言って、「A adalah B」を見たら「A = B」を想像すればいいです。

例：Itu adalah buku. — あれは本だ。

例：Dia adalah teman. — 彼は友達だ。

例：Anto adalah guru. — アントは先生だ。

簡単でしょう。でも実は「adalah」について一つ重要な使い方があります。

等しさの表現では「adalah」を省略しても大丈夫です！

これは日本語みたいに「だ」を省略して「これはペン」と言っても意味が伝わります。普通の会話では「adalah」はわざわざ言わないです。

例：Ini pulpen. — これはペン。

例：Dia teman. — 彼は友達。

ではいつ「adalah」を使うかというと、百科事典や論文などで定義をする時に「adalah」を使います。そのような場合しか普段使わないので「adalah」は堅苦しく聞こえます。その他に「adalah」の左側または右側が

長いとき、相手がその区切りが簡単にわかるように「adalah」を使うことが多いです。

## 「adalah」の否定形

否定するときに「adalah」は「bukan」に変わります。

「bukan」を使ってあるものが何かではないと否定する

その時も名詞の間に「bukan」を入れる

例：Ini **bukan** pulpen. — これはペンじゃない。

例：Dia **bukan** murid. — 彼は学生じゃない。

例：Itu **bukan** makanan. — あれは食べ物じゃない。

ご覧のように使い方は数学の「≠」みたいです。

日本語の場合「だ」の活用を説明するとき過去形の「だった」と「じゃなかった」を説明するのは当然ですが、インドネシア語では過去形の活用がないです。過去を表すために「昨日」や「先月」など時間を表す単語を入れますが、その使い方は他の章で詳しく説明します。

## まとめ

ここで等しさの表現とその否定形を勉強しました。次はものの性質を形容詞で表すことを勉強します。この章で勉強したことを表でまとめます。

等しさの表現

肯定的 ini (**adalah**) pulpen

否定的 ini **bukan** pulpen

## 6 性質

ものの性質を表すときに形容詞を使いますが、日本語で言うと「寿司は美味しい」の「美味しい」はその形容詞です。インドネシア語では名詞と形容詞をちゃんと区別して「adalah」ではなく「bersifat」を使います。

「bersifat」を使ってあるものの性質を伝える

説明するものと形容詞の間に「bersifat」を入れる

例：Dia **bersifat** baik. — 彼は優しい。

「baik」は直訳すると「いい」になりますが、人の性格として「優しい」にも訳せるでしょう。

「adalah」のように、「bersifat」も普通省略します。

例：Dia baik. — 彼は優しい。

例：Saya sehat. — 私は健康。

例：Sushi enak. — 寿司は美味しい。

## 「bukan」の形容詞バージョン

ものの性質を否定する時に名詞用の「bukan」を使わないように注意してください。形容詞の場合は「bersifat」が「tidak bersifat」に変わります。

「tidak bersifat」を使ってあるものの性質を否定する

説明するものと形容詞の間に「tidak bersifat」を入れる

例：Dia **tidak bersifat** baik. — 彼は優しくない。

もう驚かないと思いますが、「tidak bersifat」は長いので「tidak」に省略します。

例：Saya **tidak** sehat. — 私は健康じゃない。

例：Sushi **tidak** enak. — 寿司は美味しくない。

## まとめ

名詞か形容詞を扱うことによって必要な単語も異なりますが、それだけ気をつければ難しい活用がないです。

性質の表現

肯定的 ini (**bersifat**) enak

否定的 ini **tidak** (**bersifat**) enak

## 7 形容詞で修飾する

日本語では名詞を修飾するときに「白い雲」のように描写する単語(白い)を前に置きます。それはあたり前だと思うかもしれませんが、実はインドネシア語では順番は逆です！

「yang」を使って形容詞で名詞を修飾する

形容詞を名詞の後に置く

例：wanita **yang** cantik — きれいな女性

説明される名詞「wanita」(女性)は最初に来て、後に続くのは描写する形容詞「cantik」(きれい)です。この順番に気を付けてください。

このように見たら、「yang」は日本語の「な」の役割を果たしているように見えますが、正確にいうとインドネシア語では「yang」は「の方」というニュアンスがあるので、「きれいな方の女性」という意味に近いです。

インドネシア人は省略するのが好きなので、「yang」は普段省略します。

例：masakan **enak** — おいしい料理

例：baju **biru** — 青い服

例：pemandangan **indah** — 美しい景色

例：orang **pendiam** — 静かな人

例：awan **putih** — 白い雲

英語も日本語と同じ順番なので最初はインドネシア語の順番に違和感を感じるかもしれませんが、練習を繰り返して馴れるしかありません。もっと複雑な例：

例：Ini adalah mobil yang mahal. — これは高い車だ。

例：Dia anak pintar. — 彼は頭がいい子。

例：Itu bukan baju baru. — あれは新しい服じゃない。

前章の「bersifat」も今回の「yang」も省略するので、1つの文章が曖昧な場合があります。例えば「mawar merah」は「バラは赤い」(mawar bersifat merah)という意味にもなりますが、もしかして「赤いバラ」(mawar

yang merah) という意味かもしれません。このとき文脈で正しい意味を把握するしかありませんが、ほとんどの場合それははっきりなので全然難しくないです。他の例：

例：komputer murah — 「安いパソコン」(komputer yang murah) または「パソコンは安い」(komputer bersifat murah)

例：Ini komputer murah. — これは安いパソコン。(Ini adalah komputer yang murah の省略)

## yang tidak

形容詞の否定形は「tidak」を使うので、そのまま「yang」と一緒に使ったら否定形で名詞を修飾することができます。

### 否定形の形容詞で修飾する

否定形の形容詞 (tidak ...) を名詞の後に置く

例：masakan yang tidak enak — おいしい料理

前も説明しましたが、この「yang」は日本語で「の方」と近い意味を持っているので、ニュアンス的には「おいしい方の料理」と近いです。

例：kelas yang tidak susah — 難しい授業

例：sungai yang tidak bersih — きれいじゃない川

例：Mereka murid yang tidak rajin. — 彼らは真面目じゃない学生だ。

例：Itu contoh yang tidak benar. — それは正しくない例だ。

今回の否定形の場合は「yang」はあまり省略しないです。

## 複合語

説明されたものと形容詞の順番は日本語と逆なんですけど、複合語を作るときも同じ現象が起こります。

例えば、「病院」という複合語はインドネシア語では「rumah sakit」と言いますが、インドネシア語の順番でそのまま日本語で書くと「院病」になります。他の例はたくさんあります。

例：kamar tidur — 寝室 (直訳：室寝)

例：hari libur — 休日 (直訳：日休)

例：nasi goreng — 炒飯 (直訳：飯炒)

## まとめ

形容詞で修飾する時に、語順さえおぼえれば簡単です。

### 形容詞の修飾

肯定的 masakan (yang) enak

否定的 masakan yang tidak enak

## 8 dan

複数のものを並べるときに「dan」を使います。日本語の「と」と同じです。

例：aku dan dia — 私と彼女

3 個以上の物の場合も続けて dan で繋がられます。

例：Martabak dan nasi goreng dan sushi enak. — マルタバックとナシゴレンと寿司は美味しい。

ただし上のやり方は長くなるので、カンマを使って一番最後にだけ dan を使うことが多いです。

例：Martabak, nasi goreng, dan sushi enak. — マルタバックとナシゴレンと寿司は美味しい。

例：Mereka adalah Anto, Budi, Siti, dan Joko. — 彼らはアント、ブディ、シティ、とジョコだ。

形容詞も同じく「dan」を使います。

例：Dia cantik, baik, dan pintar. — 彼女はきれいで優しくて頭がいい。(Dia bersifat cantik, baik, dan pintar の略)

名詞を修飾するときも同じです。

例：Ini adalah bangunan yang baru dan tinggi. — これは新しく高い建物。

修飾するときに、「yang」と「dan」は両方省略できます。

例：Tempe dan telur adalah makanan enak dan murah. — テンペと卵は美味しくて安い食べ物だ。(yang を省略)

例：Itu rumah mahal besar. — あれは高く大きい家。(yang も dan も省略)

ただし3つ以上だと、最後は必ず「dan」を入れます。

例：Dia atlet muda, kuat, dan tampan. — 彼は若くて強くてハンサムな選手。

## 9 ini と itu

ものを指すときに「ini」(これ)と「itu」(それ・あれ)を使います。

例：ini buku. — これは本。

例：itu mahal. — それは(値段が)高い。

例：itu rumah baru. — あれは新しい家。

日本語では名詞を修飾するときに「この・その・あの」に変わりますが、インドネシア語では前章と同じく「yang」を使います。

例：toko **yang** ini — この店

もちろん「yang」は省略出来ます。

例：Toko **ini** besar. — この店は大きい。(Toko yang ini bersifat besar の省略)

例：Stasiun **ini** Shinjuku. — この駅は新宿。(Stasiun yang ini adalah Shinjuku の省略)

例：Sekolah **itu** jauh. — あの学校は遠い。

日本語で指を指しながら「この青い本」とか言いますが、そのとき「この・その・あの」は最初に来ます。インドネシア語の修飾順番は日本語と逆なので、修飾するときに「ini/itu」が一番最後に来ます！特別扱いされるので、「dan」が要るかどうかを考えると「ini/itu」以外の形容詞を考えればいいです。

例：buku besar **ini** — この大きい本

「buku besar」はもちろんそのまま言えるので、「dan」は要らないです。

例：Makanan enak **itu** mahal. — この美味しい食べ物は高い。(Makanan yang enak itu bersifat mahal の省略)

例：buku biru besar **ini** — この大きくて青い本

「buku biru besar」は言えるので上の文章は正しいです。「buku yang biru dan besar ini」ももちろん言えます。



例：Kamar besar, bersih, dan terang itu mahal. — この大きくてきれいで明るい部屋は高い。  
「Kamar besar, bersih, dan terang」の部分は3つの形容詞から出来ているので「dan」が必要です。  
名詞を修飾するときに「ini/itu」は必ず最後に来るので、これを使ったら曖昧な文章もはっきりになります。  
例：baju murah — 「服は安い」(baju bersifat murah) または「安い服」(baju yang murah)  
上の文章は両方の意味が可能だけど、「ini」を入れたら一つの意味しか持たないです。  
例：baju murah ini — この安い服 (baju yang murah ini)  
例：Baju ini murah. — この服は安い (baju yang ini bersifat murah)  
文章の一番最初に入れたらまた違う意味になります。  
例：Ini baju murah. — これは安い服 (Ini adalah baju yang murah)  
sini situ sana (もっと遠い)  
begini begitu  
masakan yang enak masakan yang tidak enak anak yang pintar anak yang tidak pintar  
peserta yang orang jepang peserta yang bukan orang jepang harus mendaftar peserta bukan orang  
jepang harus mendaftar  
buku yang bahasa indonesia saya orang yang indonesia  
peserta orang jepang tinggi peserta orang jepang yang tinggi peserta bukan orang jepang yang tinggi  
peserta yang orang jepang dan yang tinggi  
mas-mas yang mobilnya mahal itu 車が高いお兄さん  
形容詞  
所有  
ini itu  
rumah makan rumah sakit buku tulis ノート tanda tanya  
orang indonesia bahasa jepang kamus bahasa Inggris buku ini  
orang kaya buku biru  
buku bahasa indonesia biru milik toni トニーの青いインドネシア語の本  
生涯学習センター

## 10 所有

buku milik saya  
milik は日本語の「の」  
省略できる  
buku saya  
代名詞の省略  
buku aku → bukuku  
buku dia → bukunya (dia)

## 11 misc

インドネシア語の文法

indonesiagonyuumon.com

## アグロのインドネシア語入門

このサイトへようこそ。ここの資料を使ってみなさんが自分の家から無料でインドネシア語を勉強することができます。

————— それぞれの文字の名前は以下のビデオでご覧できます [ビデオ]

a ア a b ベ bé c チェ cé d デ dé e エ é f エフ éf g ゲ gé h ハ ha i イ i j ジェ jé k カ ka l エル él m エム ém n エン én o オ o p ペ pé q キ ki r エル ér s エス és t テ té u ウ u v フェ fé w ウェ wé x エクス éks y イエ yé z ゼット zét

教科書インドネシア語編

会話インドネシア語編

フレーズを学ぶのではなく、文法を

b,c,d

baca coba dada

u

babu dadu cuci

n,m

nama [na-ma] mana [ma-na] bumi [bu-mi] damai [da-mai] mau [ma-u]

e

lele emu

勉強の理由 仕事 結婚 友達 趣味

l と r の区別 pasal pasar

é-nak

rokok の最後の k は発音しない nenek ko'

oa doa do-'a soal so-'al oasis o-a-sis koala ko-a-la

ai pantai pan-tai air a-ir santai san-tai lain la-in

au mau ma-u kalau ka-lau

ng sangat sa-ngat lengah le-ngah mangga mang-ga

lemah などの h はバッハ

lain vs menggapai の pai 表記が同じなのに発音が違う。なので、発音の表記も必要。

不規則な発音 tahu -i tau silakan -i silahkan menteri -i mentri

文字と発音 a i u e o の 2 つの発音 abcdefghijklmnop q = k r stu v = f w x = s yz

古いスペル

数字の個数 (ekor, buah, lembar)

自己紹介 Perkenalkan Saya NAMA Saya X tahun Saya mahasiswa Saya orang NEGARA

慣用表現 selamat pagi selamat siang selamat malam terima kasih sama-sama maaf tidak apa-apa

---

教科書の文法 対 会話の文法

eh, besok ada pr nggak? wah, aku juga lupa. ntar aku coba tanya si andi ya? ok deh. kabarin lagi ya nanti.

eh, kamu udah denger belum kalau joni mau ke luar negeri? yang bener? mau ke mana? ke jepang katanya buat sekolah. keren banget! emang dia dapet beasiswa ya? iya katanya. Ntar di kelas kita tanya-tanya yuk.

---

教科書文法編 イ文→等しさ イ文→性質 イ分→形容詞で修飾する イ分→所有

過去 Ini dulu adalah buku Dia dulu adalah teman Anto dulu adalah guru 位置 Dulu Anto adalah guru Anto adalah guru dulu (adalah guru) は VO のペアで入れることができない

Ini dulu bukan buku Dia dulu bukan teman Anto dulu bukan guru

dulu だけじゃなくて kemarin

Ini kemarin bukan buku Dia tahun lalu bukan teman Anto besok bukan guru

書き言葉

---

ini itu dia

Rumah ini Rumah itu Buku ini Buku itu

toko nasi goreng ayam enak itu

Ini apa? Itu apa? Dia siapa? Dia presiden Dia siapa? Dia anto

---

Baju ini bersifat mahal Rumah itu bersifat biru

Nasi goreng enak Baju ini mahal Rumah itu biru

Nasi goreng tidak enak Baju ini tidak mahal Rumah itu tidak biru Dia tidak baik

Nasi goreng dulu tidak enak ...

(adalah) time marker (+ adalah) bukan time marker + bukan

(bersifat) time marker (+bersifat) tidak time marker (+bersifat)

---

harga buku itu mahal harganya mahal その本の値段が高い 値段が高い

harga buku mahal itu... itu の位置が大事

cerita film itu menarik ceritanya menarik その映画のストーリーが面白いストーリーが面白い

nya は「何か」を明記的に表す単語

---

buku yang harganya mahal 値段が高い本 baju yang warnanya biru 色が青い服

---

形容詞

Buku biru anak baik

動詞

辞書形 = 命令形 makan! lari! lihat!

---

dia makan ikan dia berlari dia melihat film dia membaca buku

ikan berenang orang berjalan kuda berlari

ikan tidak berenang orang tidak berjalan

---

intonation CAPS = high namaNYA siAPA? namaNYA SIapa? 両方あり

---

音の変化 bolpoin → bolpen pantai → pante santai → sante